

発行：一般社団法人徳洲会 千102-0083 東京都千代田区麹町4-6-8 ダイニチ麹町ビル2階 TEL:03-3263-8131 制作：一般社団法人徳洲会 編集室 千102-0083 東京都千代田区麹町4-6-8 ダイニチ麹町ビル4階 TEL:03-6272-3687 FAX:03-3263-8125 Email:news@tokushukai.jp

徳洲新聞

www.tokushukai.jp

志は高く、目線は低く、患者さんの幸せを願う病院づくり

救命センターを改修し ICU機能を備えた専用病棟を新設

- ②患者早期警告システム(1面続き)
- ③第6回事業所責任者研修会 食事や栄養の知識をアップ
- ③全国薬剤部責任者会議 病棟業務の推進を確認
- ③放射線による不妊を警告 若者はとくに配慮が必要
- ④第15回日本臨床救急医学学会総会・学術集会 徳洲会から6演題発表
- ④施設だより



化し、処置する間もなく亡くなるケースがまれにあることから、急変を早期発見し、患者さんを救命するために開発された。

徳洲会のシステムは、世界で最初に同様のシステムを開発したオーストラリアや、そのシステムを改良した英国のものを参考にした。患者早期警告システムは、日本での導入は遅れていたが、徳洲会は2010年にシステムの開発をスタート、9月に国内で初め

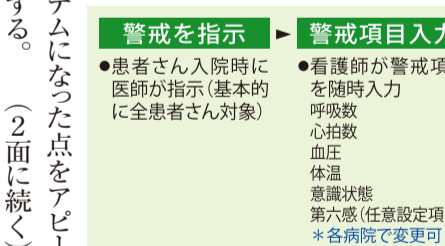


「患者早期警告システムは、病院規模や地域性に合わせた運用が可能です」とTISの尾崎社長

ての稼働を目指す。オーストラリアではシステム導入後、入院患者さんの予想外の心肺停止率が0.4%から0.2%に減少、英国ではICU(集中治療室)での院内死亡率が22.7%から14.7%に

有意に改善した。こうした結果を受け、患者早期警告システムは欧米各国で運用、グローバルスタンダードになりつつある。患者さんの急変を早期発見する仕組みは、バイタルサイン(生命兆候)や意識状態などを点数化し、その点数が警戒レベルに達すると、警告音とともに電子カルテ上に警告メッセージが現れて知らせるといふものだ(図)。警告が発せられれば、即ドクターコ

患者早期警告システムの流れ(仮)



ルする。(2面に続く)

徳洲グループ

患者早期警告システム開発 急変患者さんのリスク低減

徳洲会は、日本で初めて患者さんの急変を早期に発見する患者早期警告システムを電子カルテに導入する。患者さんの重症化や急変による死亡リスクを最小限に抑えることが狙い。9月に中部徳洲会病院(沖縄県)、その後、湘南鎌倉総合病院(神奈川県)、同システムを先行導入する予定だ。順次、他病院にも導入する計画で、院内急変事例の救命率向上に大きく寄与することが期待される。

徳洲会では、このような患者さんの状態を測る警戒項目のなかに、看護師の「この患者さんはいつもと違う」、「何かがおかしい」という感覚を「第六感」として盛り込んだ。この警戒項目はオーストラリアでも導入されており、徳洲会

は患者さんと接する時間の多い看護師の感性を重視した。システムを開発した徳洲会インフォメーションシステム(TIS)の尾崎勝彦社長は、「このシステムでは患者さんの年齢や診療科によるパターンを追加したり、警戒スコアの基準値を変更したりすることができ、これにより病院規模や地域性、診療科に即したシステムの運用が可能です」と、独自開発したことにより汎用性の高いシ

ールとなる。徳洲会では、このような患者さんの状態を測る警戒項目のなかに、看護師の「この患者さんはいつもと違う」、「何かがおかしい」という感覚を「第六感」として盛り込んだ。この警戒項目はオーストラリアでも導入されており、徳洲会

は患者さんと接する時間の多い看護師の感性を重視した。システムを開発した徳洲会インフォメーションシステム(TIS)の尾崎勝彦社長は、「このシステムでは患者さんの年齢や診療科によるパターンを追加したり、警戒スコアの基準値を変更したりすることができ、これにより病院規模や地域性、診療科に即したシステムの運用が可能です」と、独自開発したことにより汎用性の高いシ



(左から)フレルバータル駐日大使、ダンバダルジャア初代駐日大使、徳田虎雄理事長、ソノルバラム大統領顧問、宮田修・モンゴル徳田財団理事

モンゴル最高勲章 徳田理事長が受章

徳洲会の徳田虎雄理事長は6月15日、モンゴル最高位の勲章である「北極星勲章」を、ツァヒヤール・エールベグドルジ大統領から授与された。北極星勲章はこれまで大相撲の横綱・

今年日本とモンゴルの国交樹立から40周年。同国政府はこれを記念して徳田理事長をはじめ、民主党参議院議員の江田五月・元参議院議長ら9人

の日本人に同勲章の授与を決めた。徳洲会はモンゴルに対し、2005年に小児病院に人工呼吸器を寄贈。さらに、11年9月にはモンゴル国立病院に透析機器を寄贈し、徳田記念透析センターがオープン。研修生の受け入れも行っており、最近では医師1人、看護師2人、臨床工学技士1人の合計4人が東京西徳洲会病院で研修している。さらに、モンゴルに病院を建設する構想もある。

今回の徳田理事長の受章は、こうした徳洲会の連の医療支援が、同国の医療の発展に貢献したと評価されたことによるもの。徳田理事長は「現在、日本では10カ所以上で病院の新築移転などのプロジェクトを進めています。海外でも10カ所以上同時に、プロジェクトに取り組めるはず。一緒にモンゴルに病院を開設する夢を実現しましょう」とあいさつした。ソドブジャムツ・フレルバール駐日大使は、「医療支援を通じてモンゴルと日本の良好な関係の発展に貢献したことに感謝します」と北極星勲章を授与。

ダンバダルジャア・ソノムドルジ初代駐日大使は6月14日までの約2週間、茅ヶ崎徳洲会総合病院(神奈川県)に入院し、その間に91歳の誕生日を迎えたことを報告。入院中に徳田理事長から花束が届けられたことに、感謝の意を伝えた。

ドグミド・ソノルバラム大統領顧問は、「徳田理事長の『生命だけは平等だ』の理念に感動しました。貧しくて困っている人を救うこと以上に素晴らしいことはありませぬ」と感想を漏らした。

6月13日午前10時半から15分間、「社会保障と税の一体改革に関する特別委員会公聴会」で、5人の公述人に対し徳田たけし代議士が質問をしました。

12日10時	鈴木専務、アサー氏来室。
12日11時	長谷川岳代議士、徳田たけし代議士来室。
12日18時半	岸和田徳洲会病院・東上院長、植嶋事務部長来室。
13日13時	河原医療大学校・佐伯幸子副学長、久保部長来室。
13日14時	伊藤憲司氏、加藤千穂子さん来室。
14日15時	徳田美千代理事、生見クリニック・米倉善美さん、岩崎恭子さん、篠貴之氏来室。
16日16時半	徳之島町議会・広田勉議員来室。
16日17時半	茅ヶ崎駅前クリニック・田村院長来室。
16日17時	ガナ共和国・ブランフル駐日大使、透析研修修了者4人、ミランゴ氏来室。
16日18時	初代駐日大使、ソノルバラム大統領顧問、モンゴル徳田財団・宮田修理事、越澤徳美社長、徳田恵子理事、三宅和幸氏、三宅ゆかり理事、能宗専務来室。
16日19時	薬剤部会全国責任者会議出席者70人來室。
17日10時半	幹部会。
17日11時半	政田茂さん家族来室。
17日18時	大隅鹿屋病院・井戸院長、坂口事務部長来室。
18日14時	みずほ銀行大坂中央支店・富取隆浩支店長、能宗専務、池田顧問来室。
19日14時	伊東秀子さん来室。
19日15時	岡崎泰氏来室。
19日17時半	公益財団法人徳田財団理事会会視聴。
19日18時半	15日、モンゴルの最高勲章である「北極星勲章」が徳田理事長に授与されました。小児用人工呼吸器や透析機器の寄贈など、長年にわたるモンゴルへの医療貢献の証しである勲章は理事長の胸で光り輝いていました。

公聴会で初質問

6月13日午前10時半から15分間、「社会保障と税の一体改革に関する特別委員会公聴会」で、5人の公述人に対し徳田たけし代議士が質問をしました。代議士は冒頭、「消費税増税については、国民の皆様の理解もずいぶん深まっているようにも思われます。しかしながら、今回の社会保障と税の一体改革については、たいへん消極的または否定的なご意見も少なくありません。私の地元・鹿児島でも多くの否定的な声がかれます。その原因となる懸念とは何か。やはりいけばんださいのは、この消費税が経済にどのような影響を与えるかという部分だろーうと思います」と語りかけました。質問終了後、元財務相の伊吹文明先生から「いい質問だったよ」とお声をかけていただきました。質問の機会を、ありがとうございました。



「社会保障と税の一体改革に関する特別委員会公聴会」で質問に立つ徳田代議士